

嶋満神社便り

令和四年五月号（第二十七号）

発行 嶋満神社奉賛会

新型コロナウイルスとの付き合い方もなんとなくわかりかけ、世間ではマスクを外すことについての抵抗感も徐々に薄れてきているように思えます。

が、しかし、街を歩いていてノーマスクの人とすれ違う時に、少し心がざわつくのは私だけでしょうか？

さて今回は「八幡さん」に関する歴史上の人物で、私が敬愛する人をご紹介しましょう。

皇統の危機を救った至誠の人 和氣清麻呂公

和氣清麻呂（わけのきよまる）という人の名前くらいはご存じの方も多いと思います。そう、歴史上有名な「宇佐八幡宮神託事件」で誠を貫き、皇統を守った「至誠の人」です。

時は奈良時代、女性の孝謙天皇は退位の後も上皇となつて政権をとり、病にかかった時に「看病禪師」として親身に世話をしてくれた僧、道鏡を寵愛し、政務を任せるようになりました。さらに上皇は重祚して称徳天皇となり、皇太子を指名しなかつたので、彼女は道鏡に皇位を譲ろうとしていたのは明らかでした。

そんな中、「道鏡を皇位につけたなら、世の中は必ず平和になるだろう。」という驚くべき神のお告げが、宇佐八幡宮からもたらされたのでした。

そこでこのお告げの真偽を確かめるために遠く九州、宇佐の地へ派遣されたのが和氣清麻呂だったのでした。

実はこの騒動、お告げをもたらした大宰府の役人、宇佐八幡の元神宮司、さらには伊勢神宮まで巻き込んで練り上げられた道鏡の大陰謀だったわけで、清麻呂に対する宇佐八幡の返答はもちろん「イエス」でした。

さてここから清麻呂さんの真骨頂、「皇族でない人間が皇位を継いでよいのか」と疑問を持って八幡様に一心

に祈つたところ、「皇位には必ず皇族を立て、道鏡を除くべし。」との神の声を聴いたのです。

身の危険を承知でこのことを上皇に報告した清麻呂は案の定、上皇の怒りを買ひ、名前も「別部穰麻呂（わけべのきたなまる）」と名を変えさせられ、九州へ流罪となります。

その後、上皇の死により道鏡は失脚、清麻呂さんは名誉を回復します。そして誠実で、自分を顧みずに正しい道を進む人柄と仕事ぶりが評価されて平安京の遷都の際にも力を発揮することになるのです。

さて清麻呂さんが流される途上、道鏡の刺客に襲われたり足が動かなくなったりしますが、このとき二百頭のイノシシがどこからともなく現れて安全に清麻呂さんを導きます。そして着いた時には足はすつかり治っていたとか。

そんなわけで清麻呂さんを祀る和氣神社や、京都の護王神社には狛犬ではなく、狛イノシシが祀られています。もちろん御神徳は「足腰の守護」です。

尚、この事件に関する責任を取って、関わった巫女が自殺したので、宇佐八幡宮側はその後、責任を問われることはなかったそうです。



和氣神社（岡山県和氣町）と清麻呂公



護王神社の狛イノシシ

資料出典 「神社」で読み解く日本史の謎（河合敦）

岡山観光WEB、

和氣神社HP、護王神社HP